

●鳥をたくさん観ることができるこの季節、バードウォッチングでもいかがでしょうか？

毎年冬になると北国から渡り鳥が飛来し、夏とは違う種類の鳥を楽しむことができます。また、留鳥も多く観察できる季節です。公園内の鳥の生態を観察すると新しい発見があるかもしれませんね！

●コガモは日本で最小のカモ類

■コガモは、真冬の水辺にいるのをよく見かけます。一見普通のカモに見えるのですが、ひときわ小さい見た目と、オスの頭部に鮮やかな色彩を見ることができます。カルガモより小さく、ハトよりちょっと大きいくらいの大きさで、国内で確認されるカモのなかでは最小の種です。日本で越冬する際につがいになり、帰った先の北国で繁殖します。



①コガモ



●マガモは古くから狩猟の対象とされてきました

■マガモは古くから狩猟の対象として扱われていました。現在でも鳥獣保護法でカモ類は狩猟の対象となっており、質・量ともに最高位とされています。そのためマガモはアヒルとして家禽となり、アイガモはアヒルとマガモの掛け合わせたものとして広まっています。しかし、近年アイガモ農法として水田で使用されるアイガモが野飼



②マガモ

されるようになり、マガモとアイガモの区別がつかない個体が出現し始めました。そのため、家禽の個体と野生種の間で遺伝子汚染が広がっているのではないかと危惧されています。

●キツツキの仲間たち、アカゲラとコゲラ

■公方様の森の中で「コココココッ」と聞きなれない音が聞こえるときがあります。これはキツツキの仲間アカゲラが木の幹を叩いて穴をあけている音です。一秒間に20回もの速度でくちばしの先端を木にたたきつけ木を削っているのです。また、



③アカゲラ

公方公園にはコゲラというアカゲラより一回り小さいキツツキも生息しています。桃林を歩いているとよく見かけるので、「コココココッ」という音がしたら周囲の木を観察してみてもいいかもしれません。キツツキを見つけることができるかもしれませんよ。



④コゲラ

●乾燥するこの季節、感染症対策をしっかり行い、健康に気を付けて冬の公園を楽しんでください。

●カイツブリの別名はもぐっちょ

カイツブリの別名は「もぐっちょ」と言います。その呼び名の通り、潜水が得意な鳥で、水中の小魚や昆虫、ザリガニなどをよく食べています。水面からフツといなくなったかと思うと少し離れた水面からヒョコッと姿を現します。園内には「もぐっちょの入り江★」という場所があるので、その周辺で姿を見ることができるかもしれませんね！



⑤カイツブリ

●メジロは花の蜜が好き

冬から春にかけて、花に群がる鳥がいます。それがメジロ。緑色の体に白いアイラインが特徴の小鳥です。冬のサザンカが咲くころになると古民家に多くのメジロが花の蜜を求めてやってきます。サザンカが終わるとウメ、ハナモモ、サクラと立て続けに花の季節が続くので、メジロにとって、この公園は居心地のいい場所なのかもしれませんね。



⑥メジロ